

【国語・小1・「かん字のなりたち」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) ・別表の学年別漢字配当表の第一学年に配当されている漢字を読み、随時書き、文や文章の中で使うことができる。 (1) エ
- (思・判・表) ・語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 Bウ
- (学びに向かう力等) ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

○象形文字や指事文字における漢字の成り立ちの「可視化」

○作成した動画の共有・発表

【つかむ】

- ・絵や印からできた漢字の成り立ちに興味をもち、単元の課題を確認する。

単元の課題

漢字のでき方を知り、友達に紹介しよう。

【追究する】

- ・漢字の成り立ちや筆順を理解する。

【まとめる】

- ・漢字の成り立ちをプログラミングし、友達に紹介する。

事例の概要

○プログラミングアプリで漢字（象形文字、指事文字）の成り立ちのアニメーション画を作成し、友達と紹介し合う活動を通して、既習の漢字の成り立ちを理解し、漢字に興味をもつことができる。

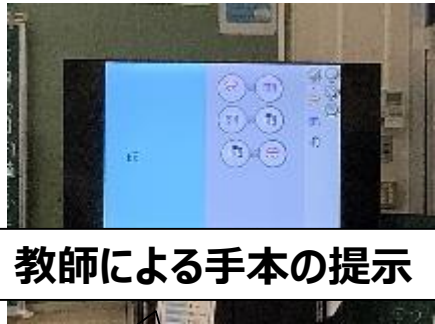
事例におけるICT活用場面

①既習の漢字（象形文字や指事文字）について、「絵→絵と字の間のもの→漢字」の順に漢字が成り立ってきたことを知り、楽しく紹介し合うために、プログラミングアプリを活用して、漢字の成り立ちのアニメーション動画を作成する。

②作成したアニメーション動画を紹介し合う場面で、ICT端末や大型テレビを活用して共有する。

【国語・小1・「かん字のなりたち」】②

【事例におけるICT活用の場面①】 ～象形文字や指事文字における漢字の成り立ちの可視化



教師による手本の提示

漢字の成り立ちを「絵→絵の間のもの→漢字」の順にプログラミングする。さらに、漢字から絵に戻るプログラミングをすることで、繰り返して動画を確認することができる。これまでは、教科書の絵で確認していた漢字の成り立ちを、自らプログラミングしたアニメーションにする活動を行うことで、より興味をもって意欲的に学習に取り組み、成り立ちを理解することで習熟も図れる。

楽しそう！早くやってみたいな。



「雨」という漢字は、本当に雨が降っているみたいだ。絵をもとにして漢字が作られていったんだね。



【事例におけるICT活用の場面②】～作成した動画の共有・発表～

「かん字のはなし」をペアや全体で紹介し合う



へえ～、印からできた漢字もあるんだね。友達が作ったいろいろな「かんじ字のはなし」が聞けて、楽しい！漢字っておもしろいね。



自分が作成したアニメーション動画をICT端末で見せたり、大型テレビに映して共有したりして、漢字の成り立ちについて説明し合った。

ICT端末を活用する場面を絞り、アナログとデジタルとを絶妙なバランスで組み合わせることにより、低学年児童が興味を持続し、無理なく活動を行うことができた

【活用したソフトや機能】

・プログラミングアプリ

・学習支援ソフト